

## 「全鍍連」 2025年 12月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 鈴木 一徳 (スズキハイテック㈱ 代表取締役)

### 「白河以北一山百文」



「白河以北一山百文」という言葉があります。明治維新の折り、新政府軍に抵抗した東北緒藩に対して「白河以北一山百文」という言葉が広まりました。これはつまり、「白河から北の地域(東北全体)は一山百文程度の価値しかない」という意味であり、つまり「東北なんぞ、何の価値もない山猿たちが暮らす国」と言われているに等しい最大級の侮蔑の言葉でした。これは、ヤマト朝廷時代から朝廷から見た「陸奥」は、遥か遠くの最前線の向こう側であり、開発の及んでいない未開の土地に、文化を持たない野蛮な人々が住んでいるといわれ、朝廷の貴族たちは彼ら「蝦夷」を野蛮族として蔑んで見ていたことの延長です。「白河以北一山百文」の言葉には、賊軍として軽視されてきた東北の歴史とともに、屈辱を忘れまいとする東北人の反骨の意思が込められているといえます。この蔑称に抵抗する意味を込めて、宮城県仙台では「河北新報」が創刊され、また、旧盛岡藩出身の原敬は「一山」と号したといえます。古来、東北は各県とも面積が大きく、山岳部が大半を占めています。また冬の寒さは厳しく、降雪も多いです。人口も多くなく過疎地も多く高齢者の比率も高い地方です。過去は農業に依存する生活で、冬期間の出稼ぎ労働も多くありました。その気候や文化、風土が当時の東北人の気性や性格に大きな影響を与えたと思います。口数が少ない、口出ししない人が多いといわれ、初対面や心を許していない間柄の場合は、余計なことは口に出さないといわれています。厳しい自然環境と隣り合わせで生活してきたことにより忍耐、我慢強い、また謙虚で遠慮しがちと言われる。総じて保守的でおおらかかもしれません。

「火怨」という小説があります。我が故郷、東北を舞台とした物語であり、この本は、知られざる東北人の東北人たる由縁を知る最高の教材です。この本は主役である「阿弔流為」の獣と蔑まれても誇りを貫く「蝦夷」の姿が美しく、「坂上田村麻呂」と「阿弔流為」の敵味方を超えた信頼関係も、読んでいて嬉しいものがあります。最後に自らの首をさすことで「蝦夷」の民を守り抜いた「阿弔流為」の生き様には、忍耐強く思慮深くそして情け深い東北人の気質を垣間見せてくれます。「火怨」は非常に誇り高く、有能で、かつ魅力的な「蝦夷」の歴史を自分の名誉ではなく、「蝦夷」の名誉と将来のために生きた「阿弔流為」と「母礼」の物語です。「政治権力・多数派」から「少数派・自分達とは異なるもの」に対する無知と侮蔑は、時代や場所が変わった今でも存在し続けています。同じ人として認められない限り頭を垂れないと言った「阿弔流為」に共感する人は多いことでしょう。「蝦夷」の人々の魅力、理不尽に立ち向かい生き活きと生きた人間の姿に感動を覚え、また「坂上田村麻呂」の苦しみも現代社会に通じており、悲哀を感じます。題名には「怨」の字がありますが、怨みと言うよりも、「怨」には正々堂々とした生き様の意味が込められているように思います。

最後に、私は東北、山形人として、誇りをもって、山形から世界に発信することを「是」として経営しております。